

正倉院宝物と 古代の技

木村 法光 著 ▶ A 5 判・508頁／定価：本体15,000円(税別) ISBN978-4-7842-1809-7 2015年6月刊行予定

正倉院宝物はどのような材料で製作されているのか。奈良時代の匠が用いた技術が優れていた理由は何なのか。

長年、正倉院事務所保存課に勤務し、正倉院宝物の調査・研究、保存・管理に携わってきた著者の研究成果を一書にまとめる。

◆◆予定目次◆◆

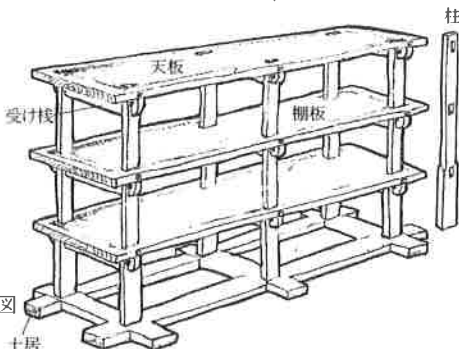
第1部 正倉院宝物の保存と管理

- 第1章 正倉院を守ってきた人々
- 第2章 日本の伝統工芸の源流としての正倉院宝物
- 第3章 正倉院薬物の保存と管理
- 第4章 正倉院楽器の保存と修復
- 第5章 正倉院事務所における復元模造
- 第6章『壬申検査社寺宝物図集』と正倉院宝物
- 第7章 正倉院宝物の残材調査

第2部 正倉院宝物の

木工・漆工・大刀

- 第1章 正倉院漆工品の内部構造と施工
—X線透視による結果と考察
- 第2章 正倉院の木工品に見る接合技法
- 第3章 正倉院の大刀鞘の素地と木取り



第3部 正倉院宝物の家具・調度と技法

- 第1章 正倉院宝物にみる家具・調度
- 第2章 正倉院の愛すべき箱たち
- 第3章 正倉院宝物にみる文様—技法別にみた場合

第4部 微に入り細に入り—正倉院宝物をめぐる

- 第1章 瑠璃螺鈿八角箱
- 第2章 合子
- 第3章 漆胡瓶
- 第4章 奈良時代の平脱・平文
- 第5章 紫檀木画箱の復元模造
- 第6章 憧庵鉸具
—特に法隆寺系金具について
- 付章 宝物調査覚え書き

図版編／索引

きむら・のりみつ…1939年滋賀県生。1966年京都市立美術大学（現芸大）美術学部工芸科卒業。1967年宮内庁正倉院事務所保存課勤務（総理府技官）、文化庁文化財保護審議会専門委員、京都市立芸術大学教授を経て、現在、福岡県文化財保護審議会専門委員、奈良国立博物館客員研究員。【主な著書】『正倉院の調度』（日本の美術294, 至文堂, 1990）『正倉院宝物に見る家具・調度』（紫紅社, 1992）『正倉院美術館 ザ・ベストコレクション』（共同執筆, 講談社, 2009）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	正倉院宝物と古代の技		本体15,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1809-7
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代 引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）				
				本書HPのQRコード	書店番線印

日本古代の武具 『国家珍宝帳』と正倉院の器仗

近藤好和著

光明皇太后が東大寺に献納した聖武上天皇の遺愛品には多くの器仗（武具）が含まれていた。その献納品目録『国家珍宝帳』に書かれた古代器仗の情報と正倉院宝物として伝わる器仗の重要性はいうまでもない。ただし両者は一部を除いて直接対応しないために、これまで総合的に分析されることは少なかった。しかし古代の器仗のありようを知るためには、貴重な基本文献・伝世品である両者を相関的に取り扱う必要がある。

本書は『国家珍宝帳』と正倉院の器仗をそれぞれ詳細に解説し、図版編には正倉院器仗を中心に多数の器仗を収録。日本古代の器仗を理解するための基本図書を目指す。

▶A5判・470頁／本体8,500円（税別） ISBN978-4-7842-1766-3

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。

▶A6判・438頁／本体3,000円（税別） ISBN978-4-7842-1439-6

正倉院展六十回のあゆみ

奈良国立博物館編集・発行

終戦後すぐの昭和21年に奈良皇室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、今年で60回を数え、秋の風物詩となっている正倉院展の歩みを、各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと、各分野の研究者によるエッセイでたどり、毎回の図録に付されている用語解説を整理・集大成して巻末に付す。

▶A4判・286頁／本体3,000円（税別） ISBN978-4-7842-1440-2

古代日本の衣服と交通 装う王権 つなぐ道

武田佐知子著

衣服が着用される儀礼の空間としての都と地方が、連続した人工的空間としての道路で結ばれていること、その道路の国家と公民における意味、そこでの衣服の機能などを考察の対象とした諸論考を冒頭に配し、古代に中国や朝鮮半島の衣服を継受しながら形成されてきた日本列島の衣服制を見通す。

▶A5判・420頁／本体6,800円（税別） ISBN978-4-7842-1723-6

※仏教考古学論攷 [全6巻]

石田茂著

正倉院御物の調査、朝鮮扶軍守里廃寺の発掘、法隆寺若草藍の発掘をはじめ数多い諸寺の永年にわたる現地調査を土台に、今日の仏教考古学の大家を樹立した石田博士の半世紀以上にわたる学問上の足跡を一冊に収める。

▶A5判・平均350頁／揃本体23,000円（税別） ※品切の第4巻を除く

続日本仏教美術史研究

中野玄三著

前著『日本仏教美術史研究』（品切）から約20年。現役引退後も京都府下の8市町村史の編纂や奈良国立博物館の調査に携わり、美術作品の調査研究を続ける中から生まれた知恩寺本十体阿彌陀像、東寺本仁王経五方諸尊像、西大寺本馬頭観音像、神護寺薬師如来立像ほかについての研究成果15篇を収録。

▶A5判・540頁／本体11,000円（税別） ISBN4-7842-1269-8

中国南北朝隋唐陶俑の研究

小林仁著

始皇帝の「兵馬俑」で知られる俑は、死者とともに埋葬される副葬明器で、中国の南北朝から隋唐時代は質量ともにその黄金期の一つである。本書は、豊富な実物調査に基づいて、膨大な数の資料を造形的特質、様式の変遷、地域性などによって整理し、豊富な図版とともに美術史・陶磁史的視点からさまざまな論点を提示する。

▶B5判・438頁／本体13,000円（税別） ISBN978-4-7842-1790-8

正倉院染織品の研究

尾形充彦著

宮内庁正倉院事務所で研究職技官として、一貫して染織品の整理・調査・研究に従事してきた著者による、35年にわたる研究成果。正倉院事務所が行った第1次・第2次の古製調査（昭和28～47年）や、C. I. E. T. A.（国際古代染織学会）の古代織物調査方法に大きな影響を受けて、身につけた調査研究方法により進めてきた正倉院染織品研究の集大成。

▶B5判・416頁／本体20,000円（税別）



ISBN978-4-7842-1707-6

正倉院宝物に学ぶ2

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008～2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。

▶A6判・348頁／本体2,500円（税別） ISBN978-4-7842-1658-1

上村六郎染色著作集 [全6巻]

上村六郎著

日本における染色学界の大先輩であり、最長老である著者の永年にわたる研究の集大成。科学という専門を基に、古い文献の渉猟、日本はもちろん中国・インド・中近東・ペルシャ・インドネシア等の広汎な研究は世界的にも評価されているものである。現代染織家にとって必須の書。

▶A5判・平均500頁／揃本体38,500円（税別）【分売可】

古文化財の科学

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果をまとめる。正倉院宝物の調査・装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・柴山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。

▶A5判・380頁／本体6,300円（税別） ISBN4-7842-0482-2

仏教美術を学ぶ

中野玄三・加須屋誠著

50年以上の長きにわたる中野美術史学の軌跡を、加須屋誠との対談をとおして振り返り、仏教美術を学ぶことの課題・方法・魅力を余すところなく収録。ソフトな文体で読みやすく、仏教美術の入門書としても最適な一書。

▶A5判・348頁／本体3,000円（税別） ISBN978-4-7842-1720-5

続々仏教美術史研究

中野玄三著

仏教美術史研究三部作の最新刊。50年に及ぶ中野美術史学の集大成。【内容】縁起絵序説／『八幡縁起』の展開／宇良神社本『浦嶋明神縁起』について／談山神社本『多武峯縁起』について／北野天満宮本『聖廟縁起』について／平等寺本『因幡堂縁起』について／縁起絵と高僧伝絵／丹後の麻呂子親王伝説と香呑童子 ほか

▶A5判・820頁／本体17,000円（税別） ISBN978-4-7842-1415-0

大和の古代史跡を歩く

町田誠之著

若い頃から京都で高分子化学や紙の研究に携わってきた著者が、記紀や万葉集をひもときながら、地図とカメラを携え、大和・河内に日本の原風景や心の安らぎを求め訪れる。環境保全を希う和紙博士の紀行エッセイ。地図・写真を掲載した古都散策の好ガイド・ブック。

▶A6判・244頁／本体2,136円（税別） ISBN4-7842-0597-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。